

ARIS-Gifu のオーナー権限付与処理による共同情報管理

興戸律子*1・村瀬康一郎*2・加藤直樹*3・益子典文*4・松原正也*5

〔概要〕平成 16 年度から国立大学は「国立大学法人」となり、教育研究活動情報を整備し大学内外に対して発信することが求められるようになった。そのような情報の収集と管理のために、今回教員の教育・研究における活動実績を蓄積管理するための情報システムを構築した。このシステムの特徴は、教員自身が便利な工具箱として日常的にシステムを利用するメリットを感得でき、複数人がデータベースの情報を共同利用するための「権限付与」、「マイリスト」、実績の入力を代理が行うための「代行入力」の処理機能が備わっていることである。この「権限付与」「代行入力」「マイリスト」機能は、複数人がデータベースの情報を共有するために必須である機能と考えるものであり、今回これらの機能について報告する。

〔キーワード〕 教育研究情報、大学情報データベース、情報管理、権限処理

1. はじめに

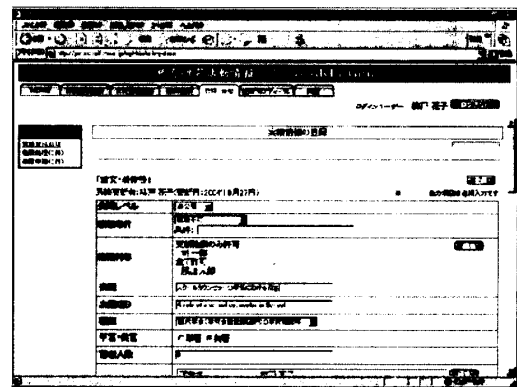
国立大学は平成 16 年度から国立大学法人となり、豊かで個性ある教育研究活動のためにその組織構成を含めて大学独自の判断で行えることが大幅に認められる反面、それら活動や成果についての説明責任が求められることとなった。このために大学はその個々の教員活動を基礎とする情報を整備し、大学内外に対して発信することが求められている。

情報を公開するためには、教員一人一人について、その教育・研究活動に関する情報を簡便かつ不足なく収集するための情報システムが必要となってきた。しかし、既存のシステムでは、多方面に渡る教員の研究実績を整理する器が用意されておらず、また、入力様式も固定的でその活用は公開目的のみとなっており、時間をかけて入力、更新する割には教員にとっては、メリットが少ないものであった。したがって一度入力すると、その情報の更新は、あまり行われていないというのが現状である。

それに対処するために、今回教育研究活動情報システム (ARIS-Gifu) を開発し、教職員は自己に関わる実績が発生すると教員自らが登録や修正を行い、一人一人の教員がもつ様々な種類の業績を自分で簡便に管理・運用ができる機能を備えたものとした。

2. 教育研究活動情報システムの概要

このシステムの特徴は、従来の個人プロフィールの項目に併せて、多様な研究活動(論文、芸術・スポーツ等)、



教育活動、社会貢献、マスコミ報道、学内運営管理、教育研究支援等の観点で教員自らが業績を記録・管理できるように、11 種類の実績に対する入力様式を用意し多様な実績に対応している。

とくに、共著論文や共同授業など、一つの実績について複数の教員が関わる場合、それぞれの教員が個々に登録すると、一つの実績が複数登録されることになり、実態と合致しなくなる。本システムでは、一つの実績情報に複数の教員名を入力し、実績情報は一件のみを登録する。これにより検索する際に同じ実績が複数検索されることを防いでいる。さらに複数の教員が関わる実績については、登録した教員だけが修正削除ができるのではなく、権限の設定により、他の教員も修正ができるようになっている。また、教員の代理で事務職員、学生等が登録可能な機能も備えている。

またこのシステムは、情報の登録・管理と検索による利用のみでなく、検索した情報をブラウザの「お気に入り

*1 OKIDO,Ritsuko : 岐阜大学 e-mail : okidor@cc.gifu-u.ac.jp ,

*2 MURASE,Koichiro : 岐阜大学 e-mail : murase@cc.gifu-u.ac.jp ,

*3 KATO,Naoki : 岐阜大学 e-mail : nkato@cc.gifu-u.ac.jp ,

*4 MASHIKO, Norifumi : 岐阜大学 e-mail : mashiko@cc.gifu-u.ac.jp ,

*5 MATSUBARA,Masaya : 岐阜大学 e-mail : masa@cc.gifu-u.ac.jp ,

り」のように記録・整理し、その都度検索を行わなくても参照できる機能がある。

3. 教育研究活動情報システムの特徴的な機能

(1) 権限付与機能（オーナー権限付与処理）

権限付与機能とは、実績の削除、修正をする権限を実績を登録した所有者のみならず共著者等に与える機能である。

教員の実績には共著論文や共同授業など、一つの実績に複数の教員が関わることが多い。この場合それぞれの教員が別個に登録すると、一つの実績が複数カウントされることになり、大学全体の実績を見たときに実態と合致しなくなるという欠点がある。本システムでは、一つの実績に複数の教員名を登録できるので、実績情報は1件のみを登録し、それに関わる教員は、この登録した実績を自分の実績として整理しておくことができる（マイリスト機能）。この機能により検索した時に同じ実績が複数検索されることを少なくすることができる。例えば、Aさんと、Bさんの連名の論文を登録する場合は、先に登録したAさんの方を優先し、後からBさんが登録しようとしたときには開始ページ、終了ページ、出版年月日をチェックし、Bさんにはこの実績がすでに登録されているというメッセージを表示し、同一の論文がAさんとBさんによって2度登録されないようにしている。さらに、登録された実績の更新、削除は、実績の登録者のみに認められている権限であるため、他の共著者等が訂正等の更新作業を行うことができない。そのため、複数の教員が関わる実績については、登録した教員だけが更新・削除できるのではなく、他の教員にもこの実績の更新・削除権等を与えることができるように設定が可能になっている。

但し権限を与えられた共著者は更新・削除が可能になるが、たとえ更新権限のない共著者であっても登録された実績は氏名で検索をすると一覧に表示されるしくみになっている。

この機能により、文献データベースを検索するごとく、検索条件を入力すれば、重なりを避けて必要な検索結果が得られる。

(2) マイリスト機能

マイリスト機能とは、情報の登録保管と検索による利用だけでなく、検索した情報をブラウザの「お気に入り」

のように記録・整理し、その都度検索を行わなくても参照できる機能である。

このシステムは、このマイリストグループを複数個持つことができるので、利用者は、実績の種類（独自の基準でよい。例えば2005年度の実績など）ごとにリストを作ることができ、整理がしやすくなる。また実績をもたない学生の利用は、検索で見つかった研究情報をまとめて整理しておくことができる。

また、複数人で関わった実績について、個人の寄与部分の記述が求められることがある。これを実績情報に記述すると、1つの実績を複数人が登録することになり、実績の重複問題が発生することになる。これに対処するために、マイリストに登録した実績情報の一つ一つにコメントの記入が可能になっている。この機能により、登録した実績には、共通する概要と個人の寄与部分のコメントを併せて保持することが可能となる。

(3) 代行入力機能

代行入力機能とは、教員自らが実績情報の入力・管理を行うことを前提としているが、実際には実績の所有者（教員）に代わって登録者、例えば学生、事務職員が登録作業を行うことを可能にするものである。

代行入力設定をしないまま登録作業を行うと、登録者（学生）が実績の所有者となり、本来の実績の所有者である教員が所有者とはならなくなる。このため、所有者（教員）が代行入力者として学生を指定することにより、実際の登録作業は学生が行っても、実績の所有者は依頼した教員となる。

この機能により、多忙な教員や入力の操作が苦手な教員にもこのシステムが活用されることとなる。

4. おわりに

平成16年度からの大学法人化に伴い、教育研究実績情報の提供が求められるようになってきた。今回、それに対処できるよう、教員が簡便に管理・運用できる教育研究活動情報システムを構築し、特徴的な機能を中心に紹介した。今後、このシステムを多くの教員の方々に利用していただき、修正を加えて、より簡便に活用していただけるシステムになることを期待している。

参考文献

- 1) 村瀬康一郎, その他, 岐阜大学における教育・研究情報システムの構築(1)～システム設計の基本方針と教職員活動実績データベースの項目構成～, 岐阜大学カリキュラム開発研究